

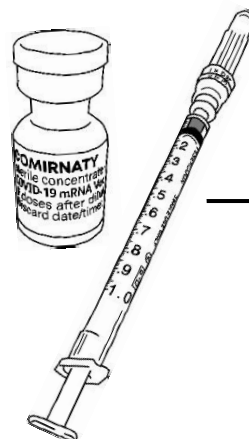
【満 12～18 歳の接種対象者と保護者の方へ】 新型コロナウイルスワクチン接種の考え方

1. はじめに

この資料は、12～18 歳の方の新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）と新型コロナウイルスワクチン（以下ワクチン）接種の考え方について、鶴岡地区小児科医会がまとめたものです。

12 歳以上の健康な子どもへのワクチン接種は意義があると考えられますが、メリットとデメリットを本人と養育者が十分に理解し、不明な点があれば、接種前に個別の説明を受けることが望まれます。

接種を受けるか迷っている方だけでなく、接種を希望している方もこの資料をお読みいただき、判断していただくようお願いいたします。



2. 考え方

①まず周囲の大人がワクチンを接種しましょう

子どもたちの多くは家族から感染します。ワクチン未接種の子どもを守るためには、周囲の大人の接種が重要です。

なお、12～18 歳の方の多くの健康な方は感染しても無症状か軽症のため、接種の優先順位は低くなります。19～59 歳までの方々のワクチン接種が段階的に進んだ後の接種開始となることをご承知おきください。

②基礎疾患を持つ子どもへの接種は、主治医と相談してください

重症化リスクの高い基礎疾患^{*1}を持つ子どもは、ワクチン接種により COVID-19 の重症化を防ぐことが期待されます。しかしワクチンの副反応^{*2}は思春期の子どもたちや若年成人では高い頻度で見られます。

副反応は接種翌日をピークに減少し、1 週間以内にほぼ改善しますが、ワクチンの接種には接種前の十分な説明と接種後の健康観察が必要なため、本人の健康状態をよく把握している主治医と保護者の間で、接種後の体調管理等を事前に相談してください。

※1 「基礎疾患」

神経疾患、慢性呼吸器疾患、免疫不全症、1 型糖尿病、先天性心疾患、てんかん・けいれん、肥満、高血圧、睡眠障害をさす。
日本は小児の重症例が少なく基礎疾患の詳細が不明のため、海外の報告を参照。

※2 「副反応」

ワクチン接種が原因で起こる反応のこと。
ワクチン接種により局所反応（接種部位の痛みや腫れ）や全身反応（頭痛・倦怠感・37.5℃以上の発熱など）が生じ、特に 2 回目接種後には多くの人に副反応がみられる。

2. 考え方(つづき)

③高校生や、受験・就職活動を控えた方には、接種がすすめられます

文部科学省の報告では、高校生では症状のある感染者が多く、家庭内感染が少なく、学校内感染・感染経路不明が多いとされています。これらのことから、高校生にはワクチン接種がすすめられます。

また COVID-19 の感染者は、症状の有無に関わらず隔離されます。受験や就職活動など変更やキャンセルができない予定がある人にも、ワクチン接種がすすめられます。

3. 接種に迷ったら

メリットとデメリットを比べてみましょう

COVID-19 にかかった場合とワクチン接種で副反応が出た場合のリスクを比べ、どちらを回避したいと感じるかで判断してはいかがでしょうか。

【COVID-19 にかかった場合】
少なくとも 10 日間の隔離が必要
(軽症や無症状も含む)



【ワクチンを接種し副反応が出た場合】
副反応は翌日がピーク
1 週間ほどで改善

4. 接種の注意点

思春期の子どもは、新型コロナワクチンに限らず、すべての予防接種で血管迷走神経反射(接種と関連した緊張で生じるめまいや失神)が起きる可能性があります。これまでに採血や予防接種でめまいや失神を起こしたことがある人は、安心して接種を受けられるように、遠慮なく接種医に伝えてください。

(背もたれのある椅子に座ったり、ベッドに寝た状態で接種するなどの工夫ができます)

またこれまでに採血や予防接種でめまいや失神をおこしたことがある人は、高校生以上でも個別接種医療機関での接種ならび保護者の同伴をお願いいたします。

なお不明な点は、接種前に
個別の説明を受けることを
おすすめします



【出典】

①公益社団法人 日本小児科学会

「新型コロナワクチン～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方～」(2021年6月16日)

②NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会

「子どもの新型コロナワクチン接種の考え方」(2021年7月6日)

